

防災用エアバッグプロテクターベスト、我が身を守るエアバッグシステム!

防災用

災害救助用

瞬間膨張防護服

瞬時にエアバッグが膨張し、エアバッグの強固な膨らみが首・胸・背中への衝撃を緩和します。水害時などでは浮き袋として活用できます。

CO2(炭酸ガス)で瞬時に膨張!



頸部への漂流物をブロック!

エアバッグによるメリットとは?

瞬間膨張

CO2ポンベにより
エアバッグが
約3秒で膨らみます!

衝撃緩和

エアバッグで漂流物をブロック!
背中への衝撃時は、未装着時に比べ
大幅に衝撃を低減します
日本自動車研究所にて衝撃試験実施

浮力

エアバッグによる浮力は
約19kg!
身体190kg分の
浮力があります
(水中での身体の浮力は陸上の10分の1)
(通常のライフジャケットの2倍以上の浮力)

軽量・収納性

本体重量は約1.1kg!
かさばらないのでクローゼットなどに
ハンガーに掛けて収納できます!

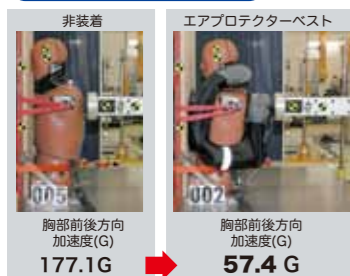
作業性・経済的

膨張しても陸上での作業が可能です!
また、エアバッグが作動しても、
損傷がなければ、ポンベを交換して
何度でも使用可能です!
(訓練などでも繰り返し使用できます)

漂流物や転倒等での衝撃緩和! 安全性を実証する確かなデータ! 財団法人 日本自動車研究所(JARI)にて試験実施

本試験で使用したHybrid-IIIダミーは、米国人の成人男性の平均的な体格(身長:175 cm、体重:78 kg)を有し、さらに構造、形状、重量、関節の可動範囲などを人体の特性に近くなるように設計された人体模型である。

評価試験-1 衝撃試験 漂流物を想定した試験



センサーを内蔵した人体模型(Hybrid-IIIダミー)にエアプロテクターベストを装着し、インパクト(打撃計測機)で頸部と胸部の打撃試験を実施しました。本試験結果をみると、Test-005(非装着)の胸部加速度(177.1G)が最も大きい。この試験条件下では、Test-002(防護服)の背面部保護性能が最も高く、Test-005と比較した場合、おおよそ32%(57.4G)に低減していたことがわかった。

評価試験-2 落下試験 転倒や落下を想定した試験



エアプロテクターベスト装着と非装着の人体模型を背面から落下させ、胴体への加速度の違いを測定しました。試験は人体模型を紐で吊るし、所定の高さから衝突台へ落下させ、落ちた衝撃を人体模型に内蔵された加速度センサーで測定します。加速度センサーの測定によるG値が小さいほど衝撃が緩和されます。

エアプロテクターベストを着用することにより、非装着の状態に比べ、胸部前後方向加速度を約68%低減していたことがわかった

エアプロテクターベストを着用することにより、非装着の状態に比べ、胸部前後方向加速度を約89%低減していたことがわかった

災害救助用に消防団・消防署への導入!

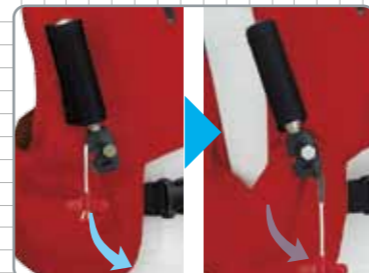
2012年6月に四国の高知県南国市、7月に高知市の消防団へ納入を開始しました。NHK・テレビ高知や各新聞で紹介されました。



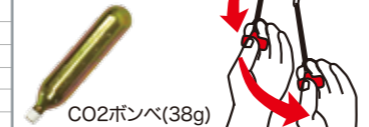
エアバッグは、起動装置の引手を引くとCO2ポンベにより展開(膨張)します!

AIRBAG PROTECTOR VEST 瞬間膨張防護服スペック

エアバッグ作動装置(手動操作)



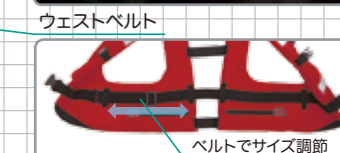
引手を引くと
エアバッグが約3秒程
で膨張します



注意 一度作動したCO2ポンベは使用できません。新しい未使用のCO2ポンベと取り替えて使用ください。



リフレクター
夜間に光を反射するリフレクター素材を正面・背面・側面に配備。



注意 必ず身体に合わせてサイズ調節してください。調節しないと膨張時や水中でズれる可能性があります

エアバルブ(排気・補給)

排気方法



空気を抜く場合は、エアバルブにキャップの突起部を押し込むと空気が抜けます

呼吸による補給も可能



気室の膨らみが十分でない時、エアバルブキャップを外し息を吹き込み補給します

内蔵エアバッグ



エアバッグ展開時

起動装置が作動するとボタンが外れて膨張します



大きな圧力・浮力で
あなたを守ります



素材: 表地/420Dナイロン、ナイロンリップ、リフレクター
エアバッグチューブ/210Dナイロン(PUラミネート)
CO2ポンベ: CO2/38g 浮力: 約19kg 重量: 1.1kg カラー: (要相談)

消防団にエアジャケット! 高知市・南国市へ導入!

(毎日新聞2012年5月22日より抜粋)

東日本大震災では、住民を誘導中に多くの消防団員が津波の犠牲になっており、南海トラフ巨大地震での沿岸部が高い津波が襲来すると予測される両市では、団員の装備充実が急務となっていた。高知市消防局によると、活動中の団員が逃げ遅れた場合に使うのが主な目的。浮輪としての機能がある上、津波など水害時に水中の漂流物から首や背中・胸を保護できる構造だ。市消防局は「膨らまない状態で着用しても救命胴衣より動きやすい」と説明している。